

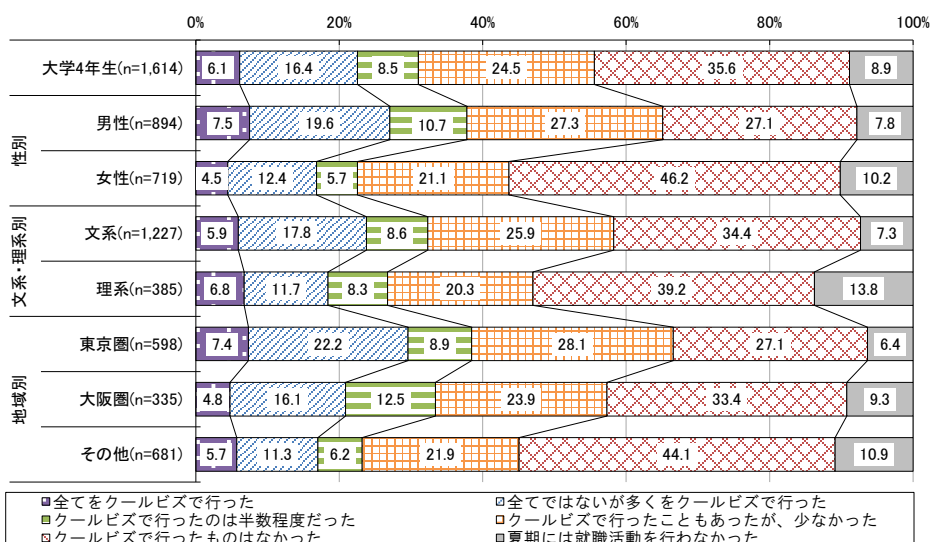
7. 「就職活動時期後ろ倒し」に関連する諸課題

(1) クールビズでの就職活動

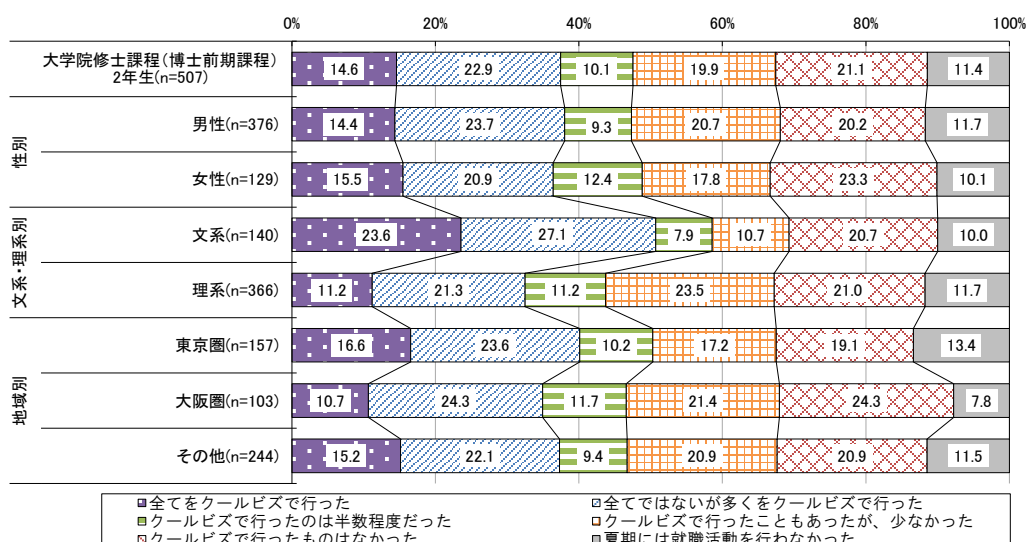
夏期の就職活動に関して、クールビズでの実施状況についてたずねたところ、大学4年生については「クールビズで行ったものはなかった」が35.6%で最も回答割合が高くなっている（図表7-1-1）。他方で、大学院修士課程（博士前期課程）2年生では「全てではないが多くをクールビズで行った」の回答割合が22.9%で最も高くなっている（図表7-1-2）。

属性別にみると、大学4年生については男性よりも女性のほうが、地域別には「その他」の地域の学生のほうが、「クールビズで行ったものはなかった」の回答が高くなっている。大学院修士課程（博士前期課程）2年生については、文系の場合に理系の学生に比べ「全てをクールビズで行った」または「全てではないが多くをクールビズで行った」との回答割合が高くなっている。

図表 7-1-1 大学4年生、クールビズでの就職活動の実施状況



図表 7-1-2 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、クールビズでの就職活動の実施状況

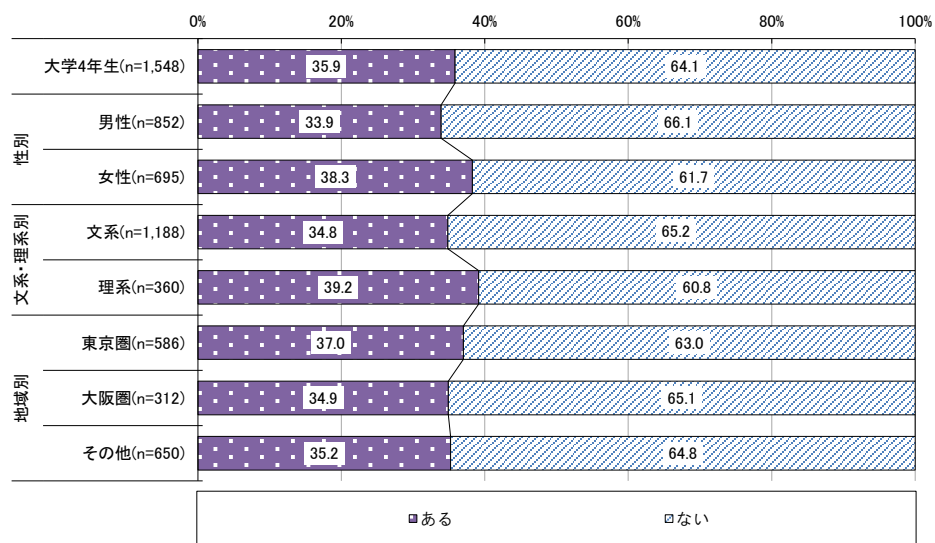


(2) 説明会やセミナーの参加の可否

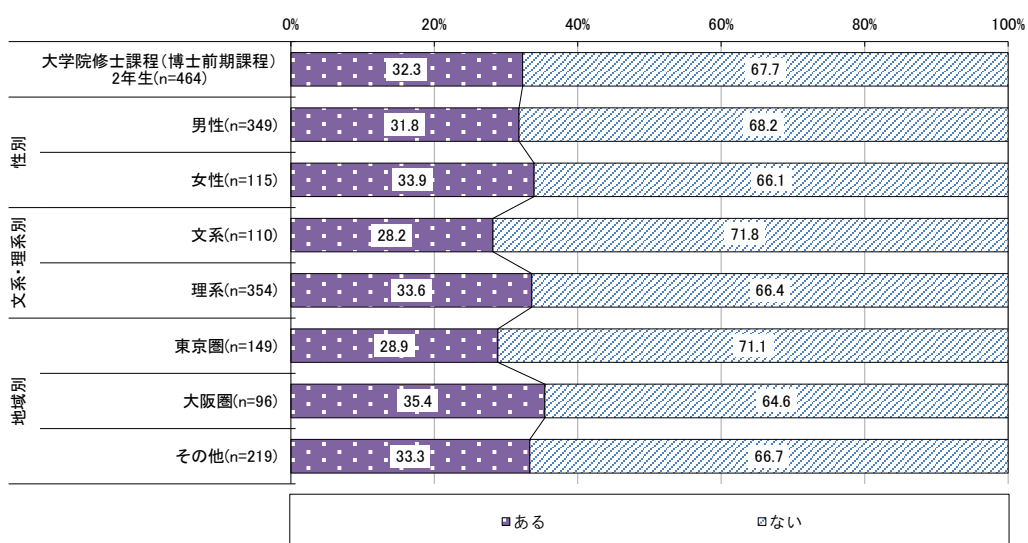
説明会やセミナーの参加の際などにおいて、希望しているにもかかわらず参加できなかったなど、大学・学部等によって参加の可否の状況等に違いがあると感じたことがあるかについてたずねたところ、大学4年生では35.9%、大学院修士課程（博士前期課程）2年生では32.3%で、ともに「ある」との回答が3割以上となっている⁵⁰（図表7-2-1、図表7-2-2）。

属性別にみると、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、男性よりも女性において、文系の学生よりも理系の学生において「ある」との回答割合が若干高くなっている。

図表 7-2-1 大学4年生、説明会やセミナーの参加の際などにおいて大学・学部等によって参加の可否の状況等に違いがあると感じたか



図表 7-2-2 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、文系・理系別、説明会やセミナーの参加の際などにおいて大学・学部等によって参加の可否の状況等に違いがあると感じたか



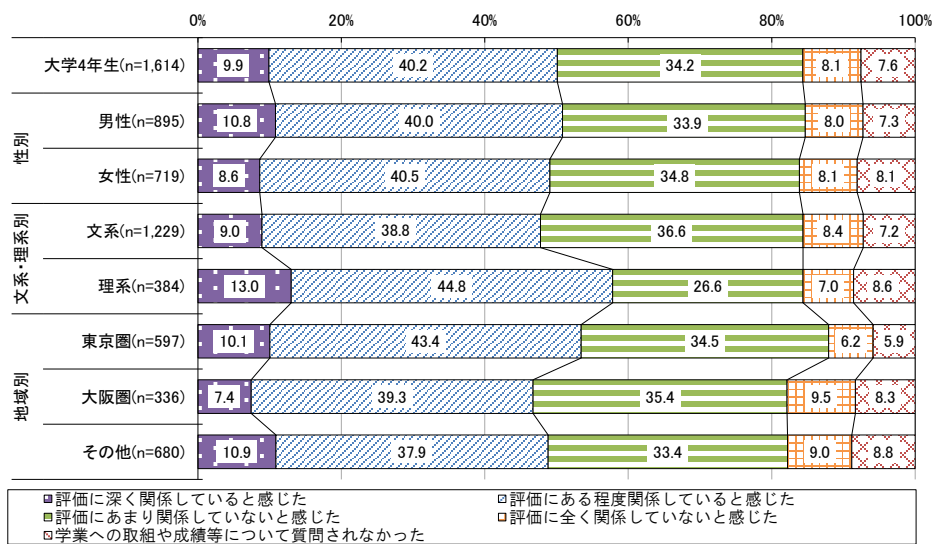
⁵⁰ 本調査の中では、なぜ参加できなかったのか等の理由や詳細状況等までは質問していない。

(3) 学業重視の選考

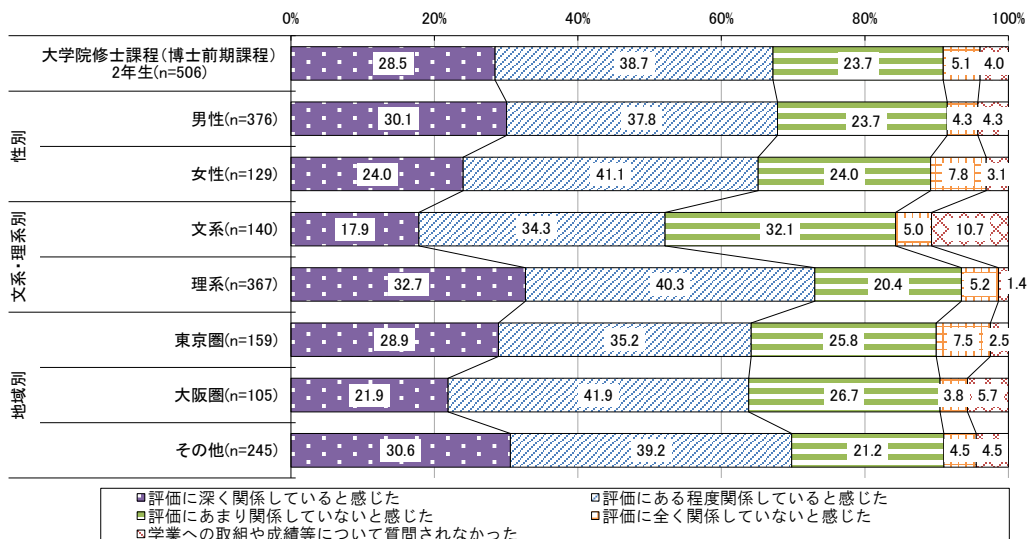
採用面接において、研究・ゼミや専門分野などの学業の取組や成績等の質問を受けたか、また、その内容が採用選考の評価に関係していると感じたかについてたずねたところ、「評価に深く関係していると感じた」と「評価にある程度関係していると感じた」を合わせた割合について、大学4年生では50.1%、大学院修士課程（博士前期課程）2年生では67.2%となっている（図表7-3-1、図表7-3-2）。

属性別にみると、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、文系の学生に比べて理系の学生のほうが「評価に深く関係していると感じた」ならびに「評価にある程度関係していると感じた」の回答割合が高くなっている。

図表 7-3-1 大学4年生、採用面接の際に学業の取組や成績等の質問を受け、評価に関係していると感じたか



図表 7-3-2 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、採用面接の際に学業の取組や成績等の質問を受け、評価に関係していると感じたか



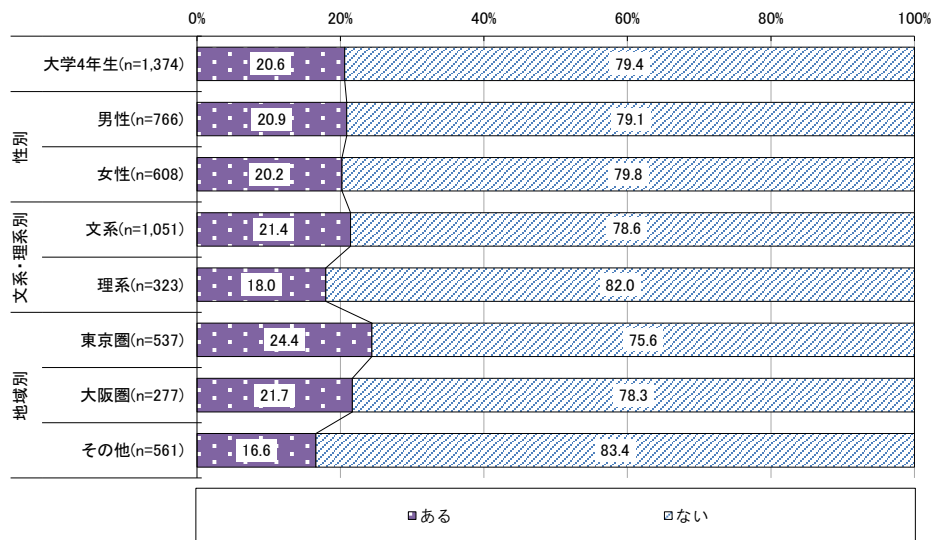
(4) ハラスメント的な行為

①ハラスメント的な行為を受けた経験

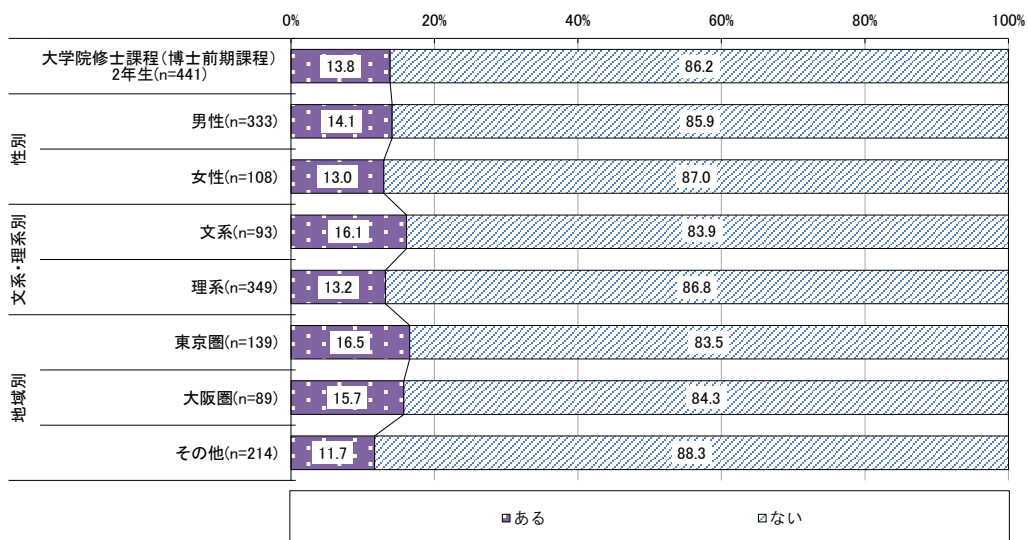
企業等から、他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為を受けたかについてたずねたところ、「ある」との回答は、大学4年生について20.6%、大学院修士課程（博士前期課程）2年生では13.8%となっている（図表7-4-1、図表7-4-2）。

また、属性別にみると、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、文系の学生のほうが「ある」との回答割合が若干高くなっている。また、地域別には、「その他」の地域よりも「東京圏」や「大阪圏」の学生で「ある」の割合が若干高くなっている

図表 7-4-1 大学4年生、企業からハラスメント的な行為を受けた経験の有無



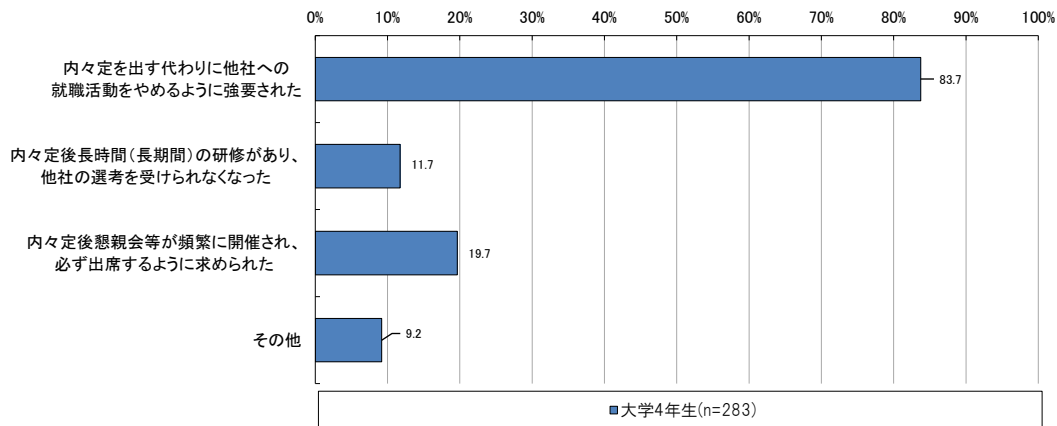
図表 7-4-2 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、企業からハラスメント的な行為を受けた経験の有無



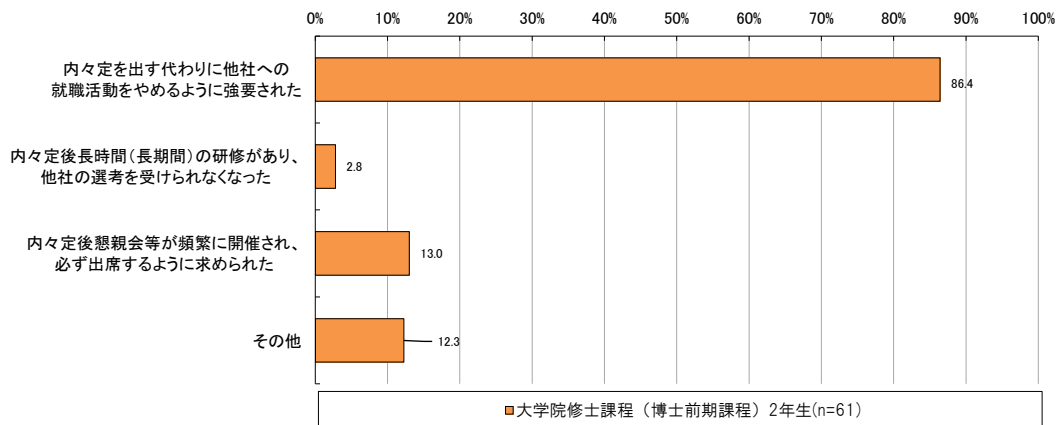
②ハラスメント的な行為の内容

企業等から、他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為を受けたかについて「ある」と回答した場合に、どのようなハラスメント的な行為を受けたかについてたずねたところ、「内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるように強要された」の回答割合が大学4年生では83.7%、大学院修士課程（博士前期課程）2年生では86.4%と、ともに8割以上と高くなっている（図表7-4-3、図表7-4-4）。

図表 7-4-3 大学4年生、企業から受けたハラスメント的な行為の内容（複数回答）



図表 7-4-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、企業から受けたハラスメント的な行為の内容（複数回答）

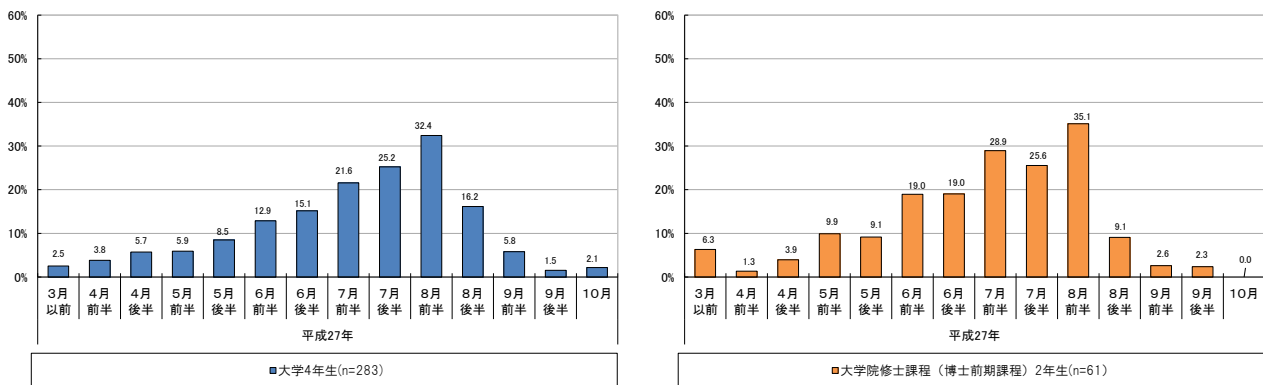


③ハラスメント的な行為を受けた時期、ハラスメント的な行為への対応

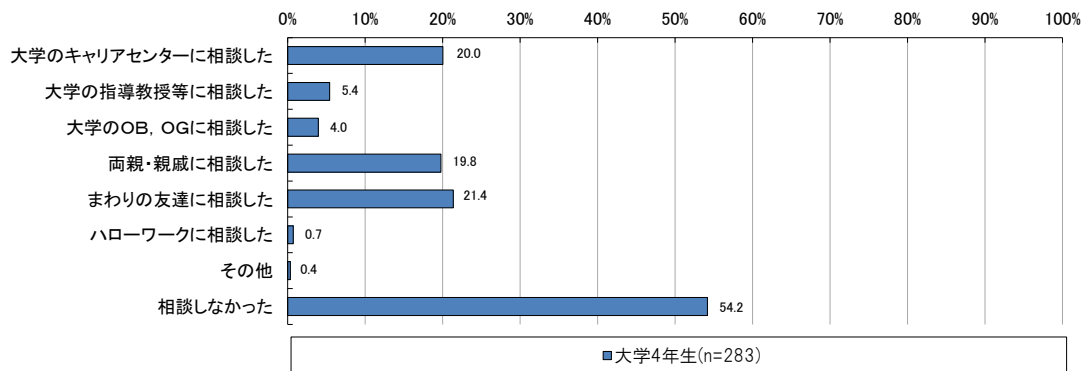
ハラスメント的な行為を受けた時期としては、「平成 27 年 8 月前半」の回答割合が大学 4 年生では 32.4%、大学院修士課程（博士前期課程）2 年生では 35.1%とともに最も割合が高く、その時期に向かって回答割合が徐々に高まっている状況にあることがうかがえる（図表 7-4-5）。

また、ハラスメント的な行為を受けた経験がある者について、その際の対応をみると、「誰にも相談しなかった」との回答が大学 4 年生では 54.2%、大学院修士課程（博士前期課程）2 年生では 52.7%と、ともに 5 割以上となっている（図表 7-4-6、図表 7-4-7）。

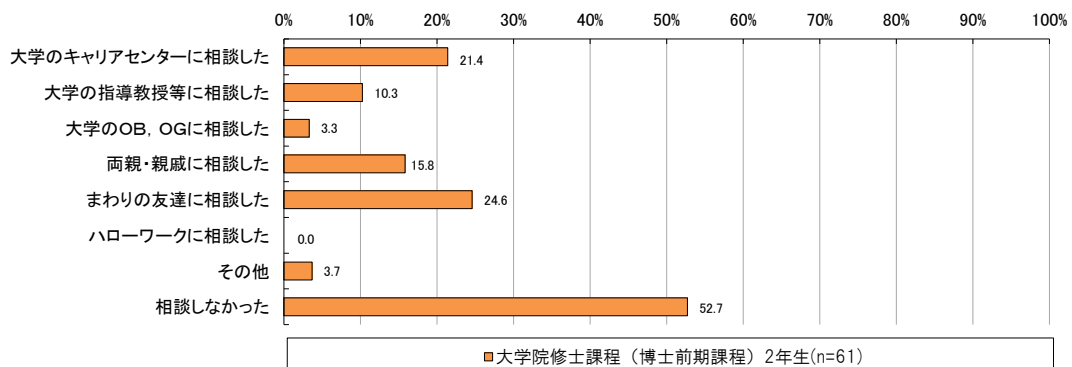
図表 7-4-5 企業からハラスメント的な行為を受けた時期（複数回答）



図表 7-4-6 大学 4 年生、企業からハラスメント的な行為を受けた際の対応（複数回答）



図表 7-4-7 大学院修士課程（博士前期課程）2 年生、企業からハラスメント的な行為を受けた際の対応（複数回答）

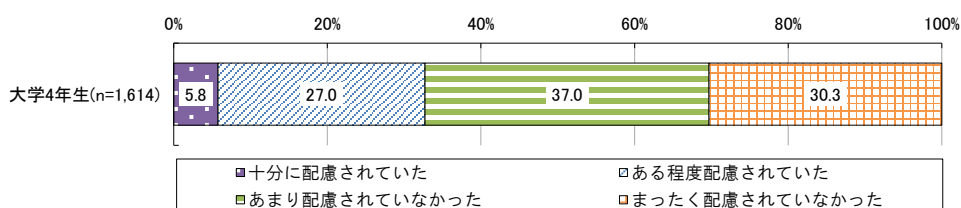


(5) 学事日程に関する調整・配慮

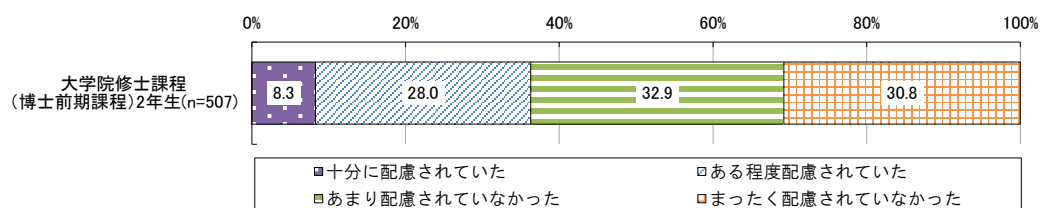
①学事日程が配慮されたものとなっていたかの認識

「就職活動時期後ろ倒し」に対応して、大学の授業や試験などの学事日程が配慮されたものとなっていたかについてたずねたところ、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに「あまり配慮されていなかった」との回答割合が最も高く、「まったく配慮されていなかった」と合わせるとそれぞれ67.3%、63.7%と、ともに6割以上となっている（図表7-5-1、図表7-5-2）。

図表 7-5-1 大学4年生、大学の授業や試験などの学事日程が配慮されたものとなっていたかの認識



図表 7-5-2 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、大学の授業や試験などの学事日程が配慮されたものとなっていたかの認識

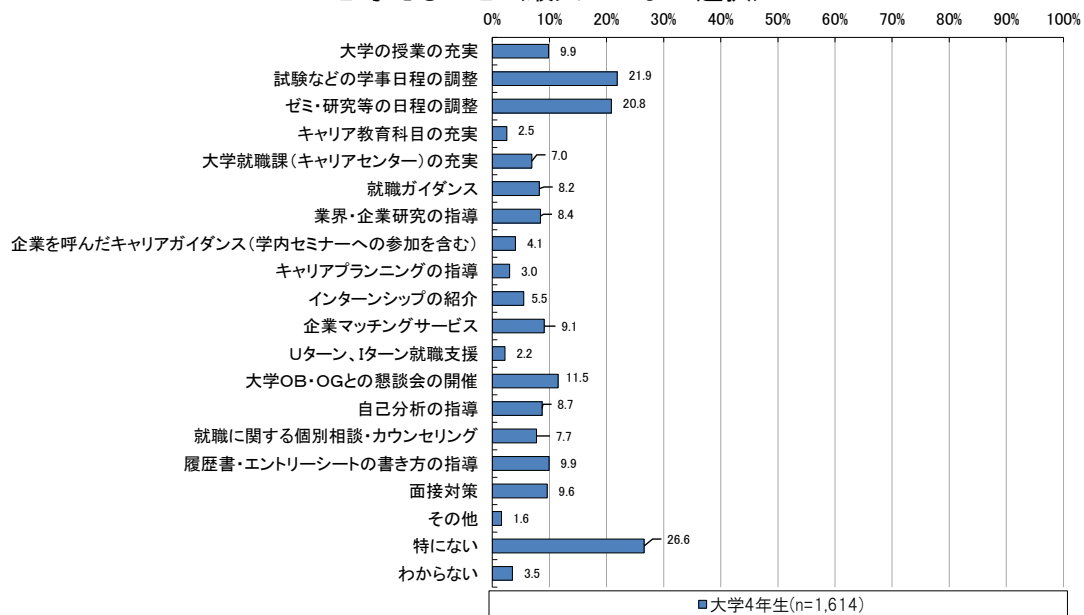


②大学・大学院に充実してほしかったこと

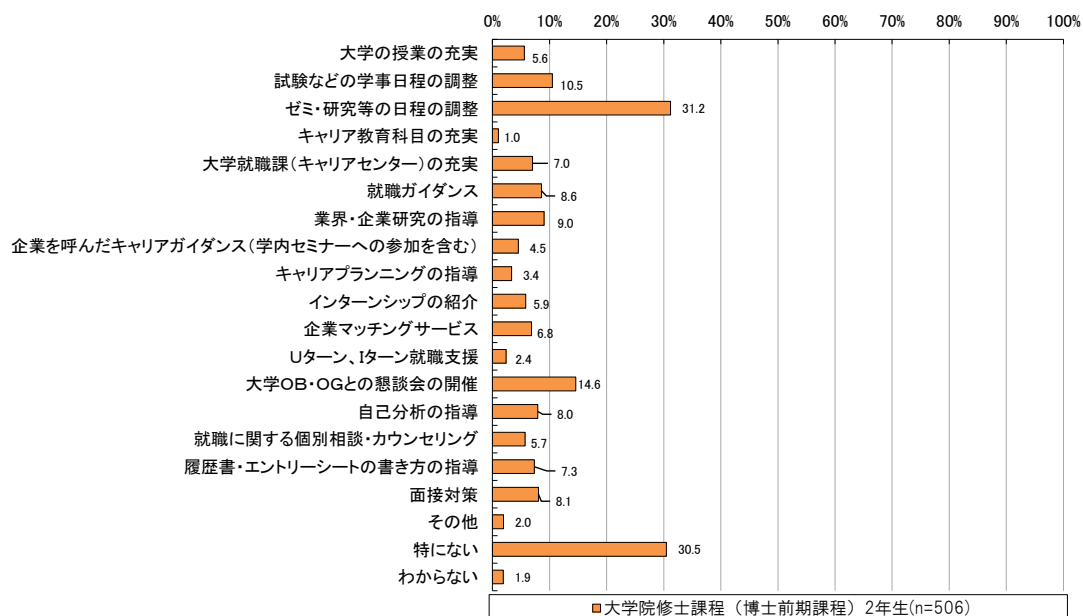
「就職活動時期後ろ倒し」について、大学・大学院に充実してほしかったと考えることについてたずねたところ、「特にない」との回答を除き、大学4年生については「試験などの学事日程の調整」の回答割合が21.9%と高くなっており、また、「ゼミ・研究等の日程の調整」も20.8%と同程度の回答割合となっている（図表7-5-3）。

大学院修士課程（博士前期課程）2年生については「ゼミ・研究等の日程の調整」の回答割合が31.2%と、比較的高くなっている（図表7-5-4）。

図表 7-5-3 大学4年生、「就職活動時期後ろ倒し」について大学・大学院に充実してほしかったと考えること（最大3つまで選択）



図表 7-5-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、「就職活動時期後ろ倒し」について大学・大学院に充実してほしかったと考えること（最大3つまで選択）



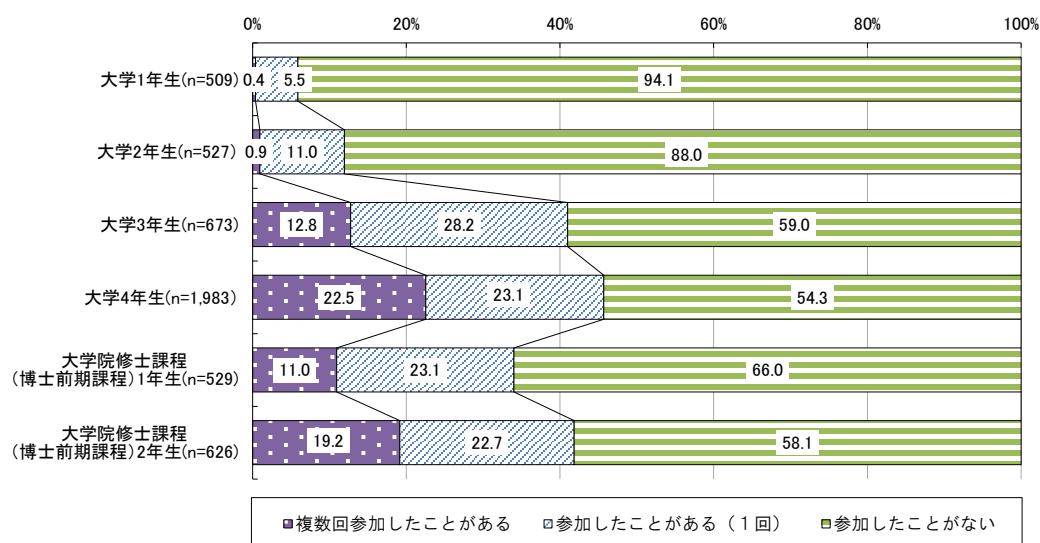
(6) インターンシップ参加状況

①各学年別、インターンシップ参加経験の有無

各学年の学生に対し、インターンシップ参加経験の有無についてたずねたところ、大学1年生・大学2年生で「参加したことがある」と回答したのは1割前後であったが、大学3年生・大学4年生では4割以上となっている⁵¹（図表7-6-1）。

また、大学院生に関しても、大学院修士課程（博士前期課程）2年生について、参加経験がある者は4割以上となっている⁵²。

図表 7-6-1 学年別、インターンシップ参加経験の有無



⁵¹ 昨年度調査の結果では、大学4年生についてインターンシップに参加したとの回答割合は約20%であり、異なる結果となっている。

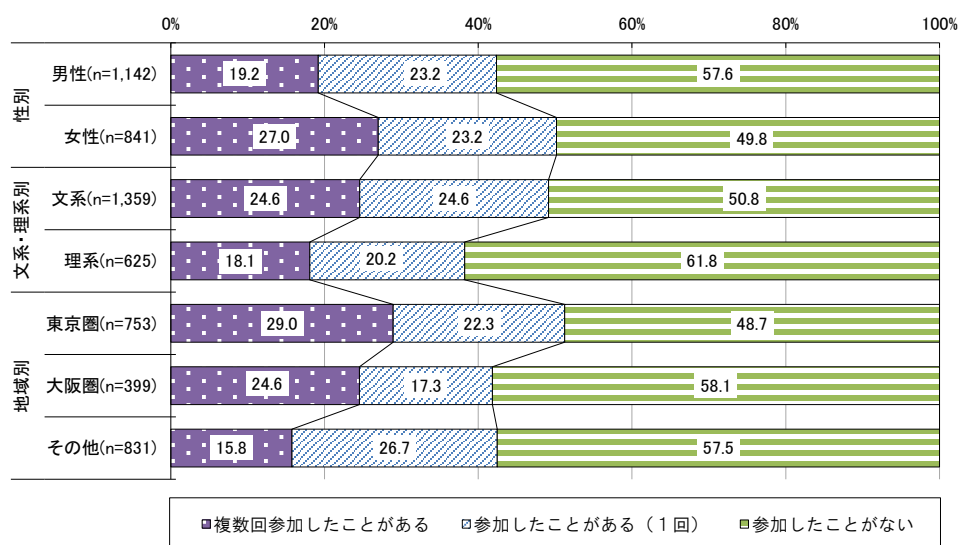
⁵² ここでは、就職活動を行っていない者も集計の対象に含む。なお、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生について、就職活動を行った者のみで集計すると、約半数が「参加したことがある」と回答している。

②属性別、インターンシップ参加経験の有無

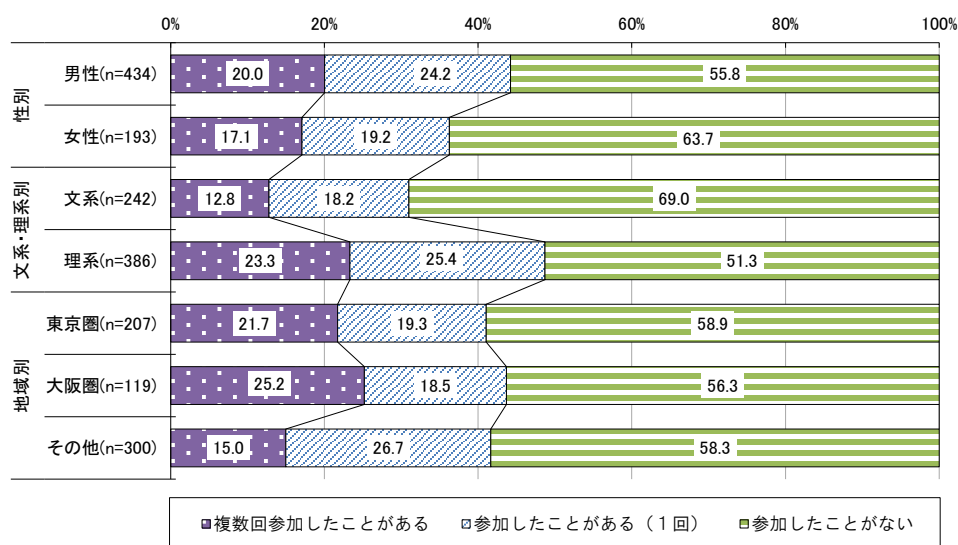
大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生に関し、属性別にインターンシップ参加経験の状況をみると、大学4年生については、男性よりも女性のほうが、理系よりも文系の学生のほうが、また、地域別には東京圏の学生のほうが、「参加したことがある」の回答割合が比較的高くなっている⁵³（図表7-6-2）。

また、大学院修士課程（博士前期課程）2年生については、女性よりも男性のほうが、文系よりも理系の学生のほうが、「参加したことがある」の回答割合が高くなっている（図表7-6-3）。

図表 7-6-2 大学4年生の属性別、インターンシップ参加経験の有無



図表 7-6-3 大学院修士課程（博士前期課程）2年生の属性別、インターンシップ参加経験の有無

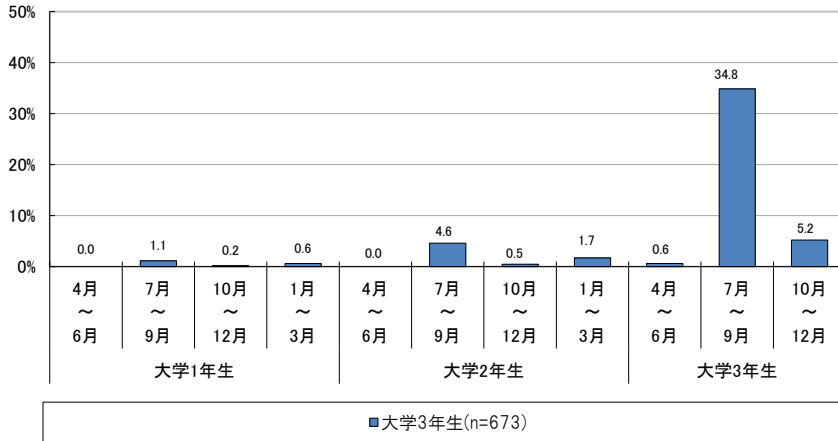


⁵³ 昨年調査から、インターンシップに参加した地域として「関東」であった割合が高いという結果が得られており、機会の多寡について地域差があるのではないかと推察される。

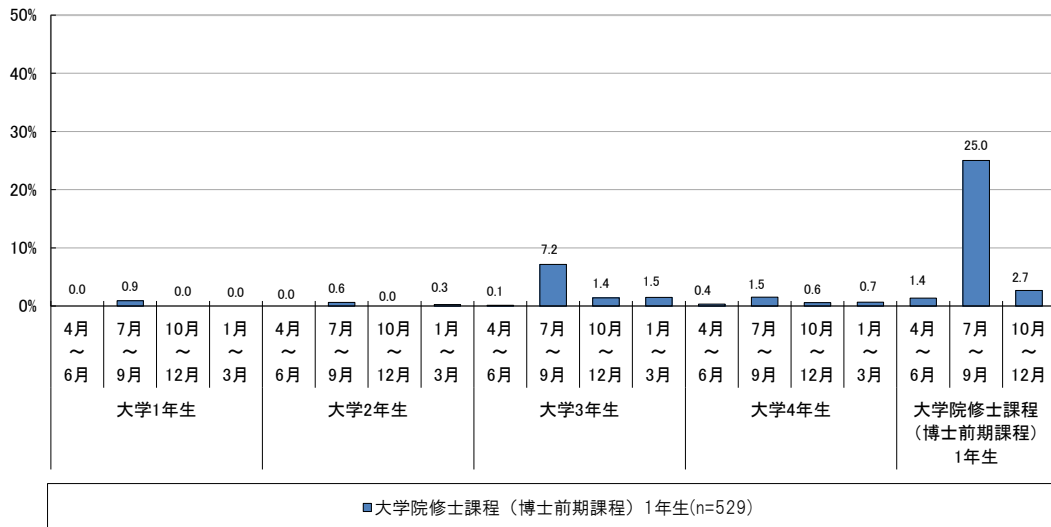
③インターンシップ参加時期

大学3年生・大学4年生、ならびに、大学院修士課程（博士前期課程）1年生・2年生に関し、参加の時期別にみると⁵⁴、大学3年生ならびに大学院修士課程（博士前期課程）1年生について、当該学年の「7～9月」の時期の参加割合が最も高くなっている（図表7-6-4、図表7-6-5）。

図表 7-6-4 大学3年生、インターンシップ参加時期（複数回答）



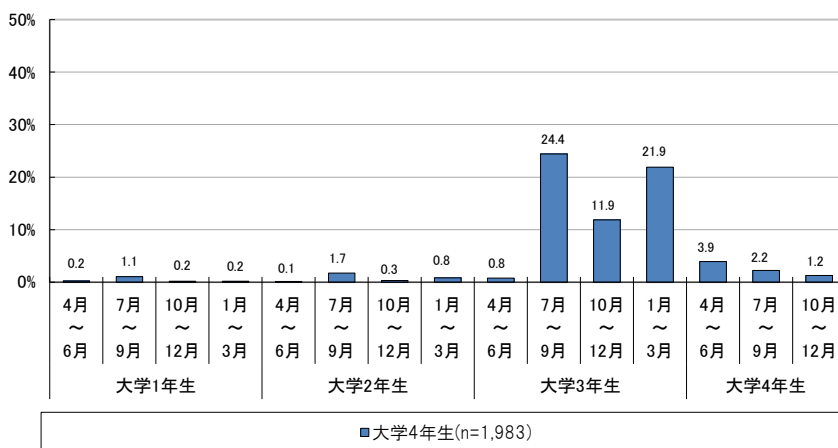
図表 7-6-5 大学院修士課程（博士前期課程）1年生、インターンシップ参加時期（複数回答）



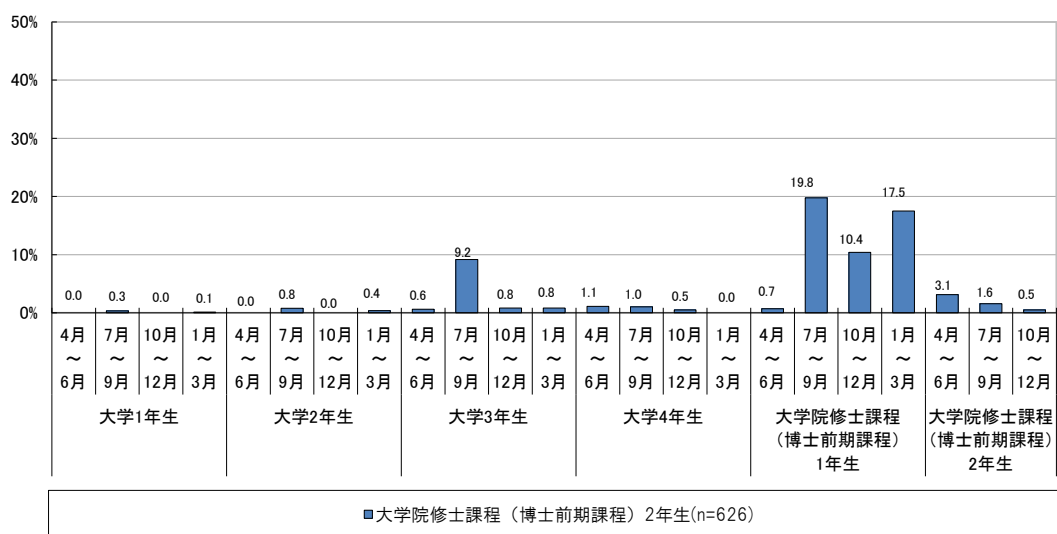
⁵⁴ ここでの集計対象には、インターンシップに参加しなかった者、または、就職活動を行わなかった者も含む。

インターンシップ参加時期について大学4年生ならびに大学院修士課程（博士前期課程）2年生に関しては、前年の「7～9月」の時期の参加割合が最も高く⁵⁵、また、「1～3月」に参加した者の割合も比較的高くなっていることがわかる⁵⁶（図表7-6-6、図表7-6-7）。

図表 7-6-6 大学4年生、インターンシップ参加時期（複数回答）



図表 7-6-7 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、インターンシップ参加時期（複数回答）



⁵⁵ ここでの集計対象には、インターンシップに参加しなかった者、または、就職活動を行わなかった者も含む。

⁵⁶ 昨年度調査においては「1～3月」にインターンシップに参加した者の割合はそれほど高くないことから、この時期のインターンシップ参加割合が比較的高くなっているのは一つの特徴であると考えられる。

④ インターンシップ参加日数

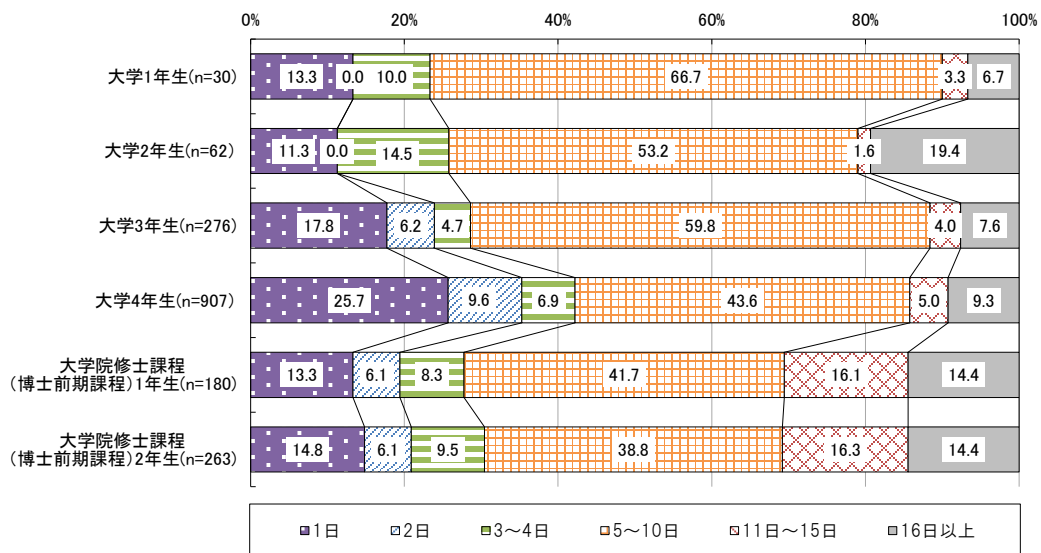
各学年のインターンシップ参加経験者のインターンシップの参加日数について、1回のみ参加したことがある場合にはその日数を、複数回参加したことがある場合には最長の日数に関して集計を行った。

学年別にみると、特に大学4年生に関して、インターンシップ参加者経験者の中で参加日数が「1日」であった者の割合が比較的高くなっており、参加者経験者のうち42.2%が4日以下であったと回答している（図表7-6-8）。

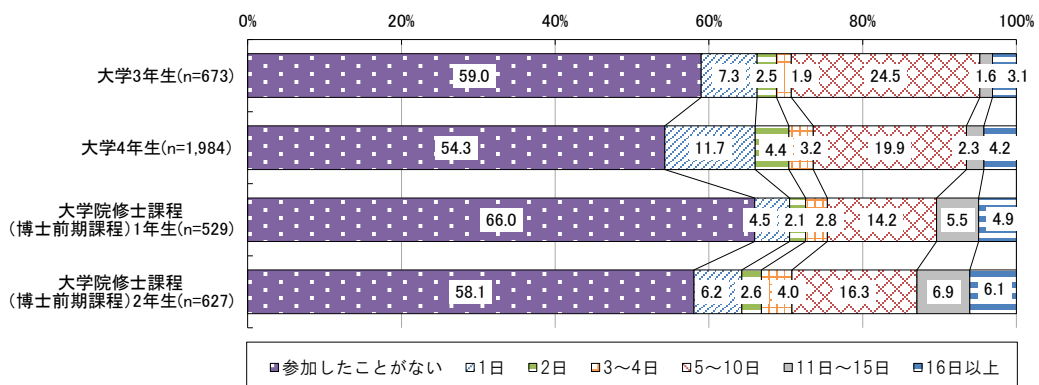
大学院修士課程（博士前期課程）1年生・2年生に関しては、それぞれインターンシップ経験者のうち約3割が11日以上インターンシップに参加したことがあると回答している⁵⁷。

なお、大学3年生・大学4年生、ならびに、大学院修士課程（博士前期課程）1年生・2年生に関して、インターンシップに参加していない人も含めてあらためて集計すると、それぞれ、5日以上インターンシップに参加した経験がある者は2～3割程度であることがわかる（図表7-6-9）。

図表 7-6-8 学年別、インターンシップ参加経験者のインターンシップ参加日数



図表 7-6-9 学年別、インターンシップ参加経験者の有無と参加日数



⁵⁷ 大学院生が比較的長い期間のインターンシップに参加しているという結果は昨年度調査でも得られている。

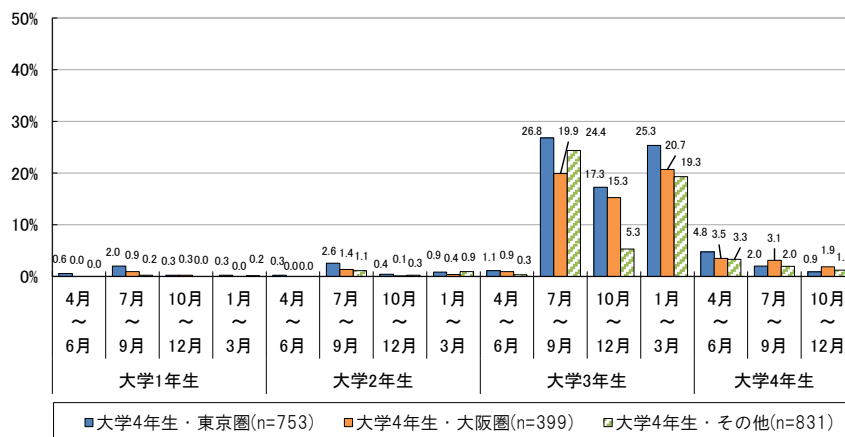
⑤大学4年生の大学の所在地域別、インターンシップ参加時期・参加日数

大学4年生に関して、インターンシップの参加時期・参加日数について大学の所在地域別に集計を行った。

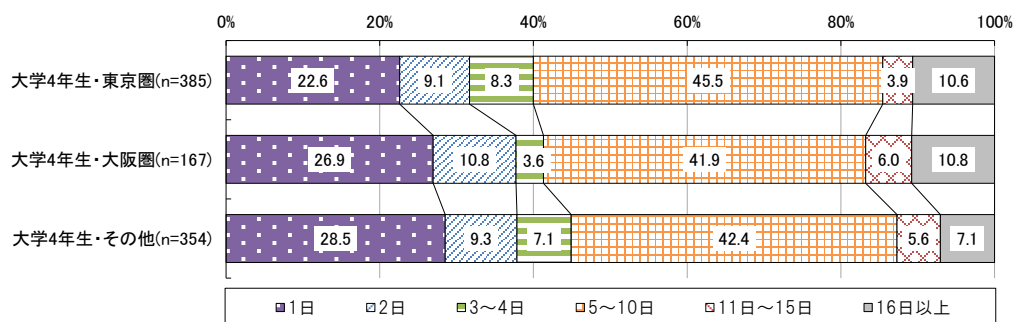
インターンシップの参加時期についてみると⁵⁸、「その他」の地域の学生の場合には、「東京圏」や「大阪圏」の学生と比較して、大学3年生の「10月～12月」の時期に参加した者の割合が比較的低くなっている（図表7-6-10）。

また、インターンシップ参加経験者の参加日数についてみると、「その他」の地域の学生では、「16日以上」の割合が若干低く、「1日」の回答割合が比較的高くなっている（図表7-6-11）。

図表 7-6-10 大学4年生の大学の所在地域別、インターンシップ参加時期（複数回答）



図表 7-6-11 大学4年生の大学の所在地域別、インターンシップ参加経験者のインターンシップ参加日数



⁵⁸ ここでの集計対象には、インターンシップに参加しなかった者、または、就職活動を行わなかった者も含む。

(7) インターンシップ参加経験と就職活動

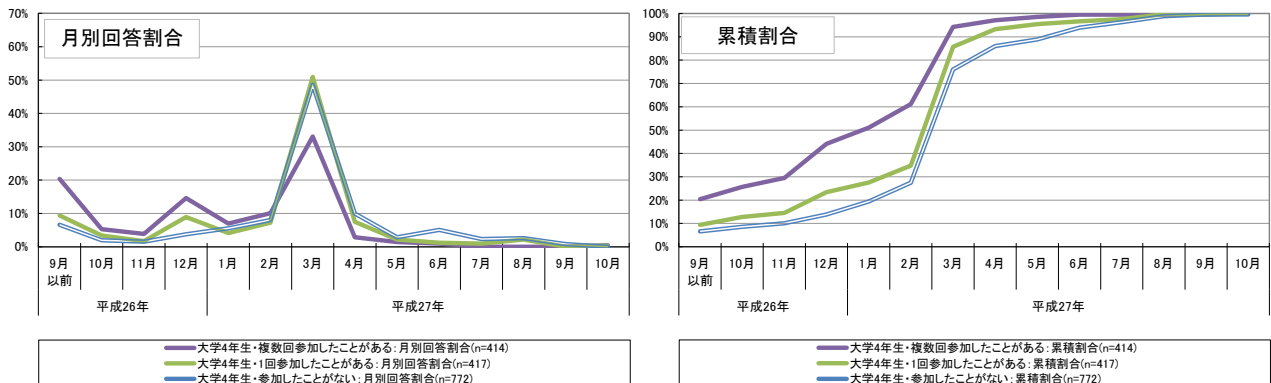
① インターンシップの参加と就職活動時期との関係

大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生に関し、インターンシップ参加経験と就職活動について始まったと認識している時期との関係について集計を行った。

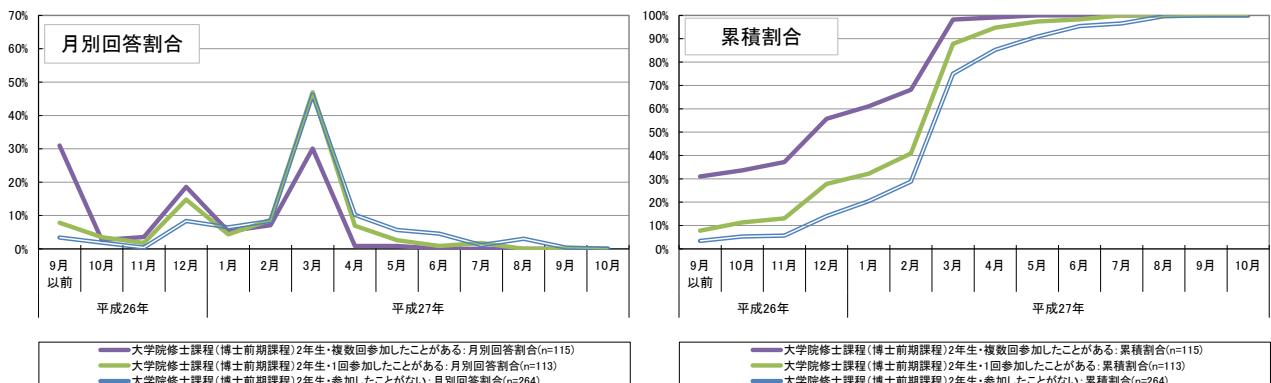
大学4年生に関して就職活動が始まったと考える時期についてみると⁵⁹、インターンシップ参加経験がある者のほうがより早い時期に始まったと回答している者の割合が高くなっている（図表 7-7-1）。特にインターンシップに複数回参加したことがあると回答した者について累積割合では、平成 27 年 2 月以前に始まったと回答した者が 6 割以上となっている。

大学院修士課程（博士前期課程）2年生についても、インターンシップ参加経験がある者のほうがより早い時期に始まったと回答している者の割合が高くなっている（図表 7-7-2）。特にインターンシップに複数回参加したことがあると回答した者について、累積割合では平成 27 年 2 月以前に始まったと回答した者が 7 割近くとなっている。

図表 7-7-1 大学4年生、インターンシップ参加経験の有無と就職活動が始まったと考える時期



図表 7-7-2 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、インターンシップ参加経験の有無と就職活動が始まったと考える時期

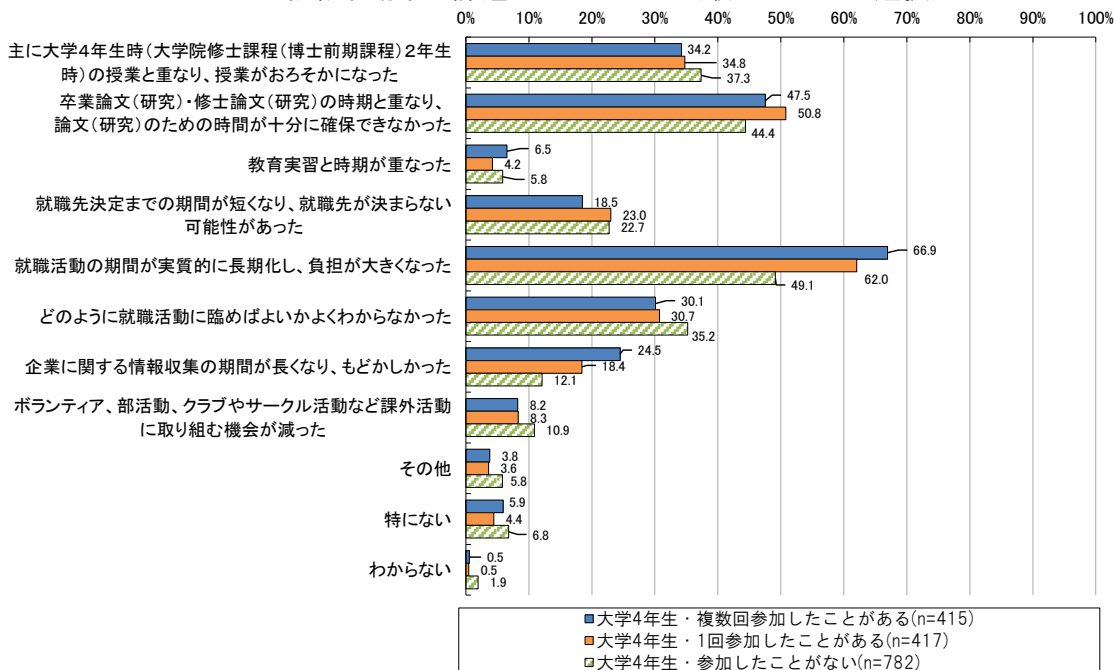


⁵⁹ 始まったと考える時期について「わからない」と回答した者は、ここでは集計の対象外とした。

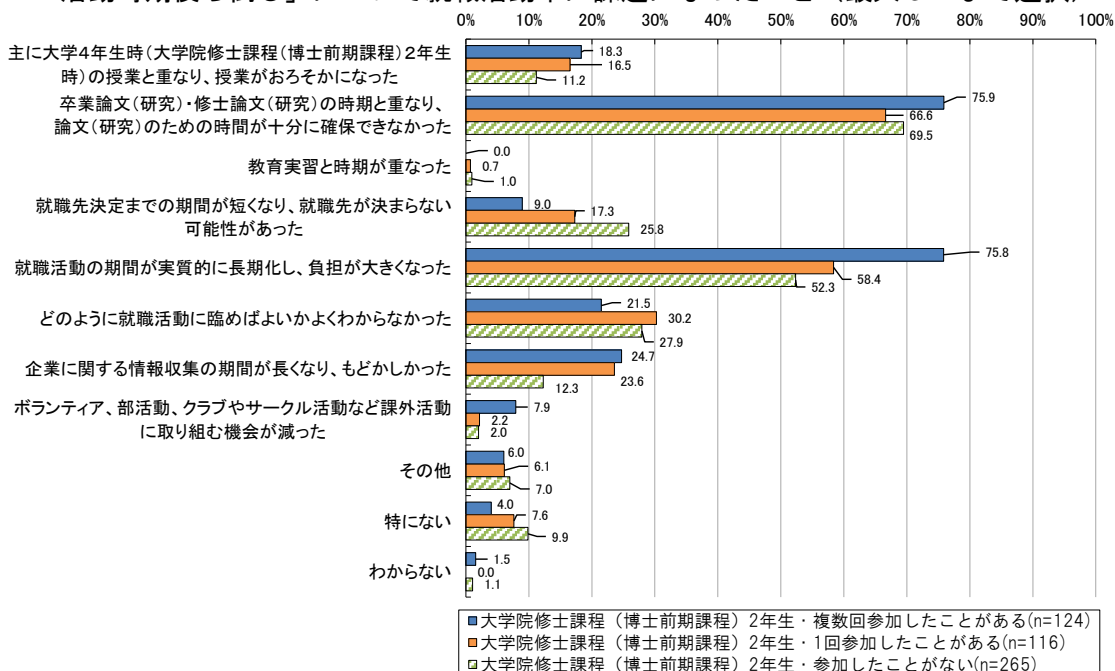
②インターンシップの参加と課題認識との関係

大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生に関し、インターンシップ参加経験と「就職活動時期後ろ倒し」について就職活動中に課題になったこととの関係についてみると、インターンシップに複数回の参加経験がある者では、「就職活動の期間が実質的に長期化し、負担が大きくなった」の回答割合が特に高く、また、「企業に関する情報収集の期間が長くなり、もどかしかった」の回答割合が比較的高くなっている（図表7-7-3、図表7-7-4）。

図表 7-7-3 大学4年生、インターンシップ参加経験の有無と「就職活動時期後ろ倒し」について就職活動中に課題になったこと（最大3つまで選択）



図表 7-7-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、インターンシップ参加経験の有無と「就職活動時期後ろ倒し」について就職活動中に課題になったこと（最大3つまで選択）



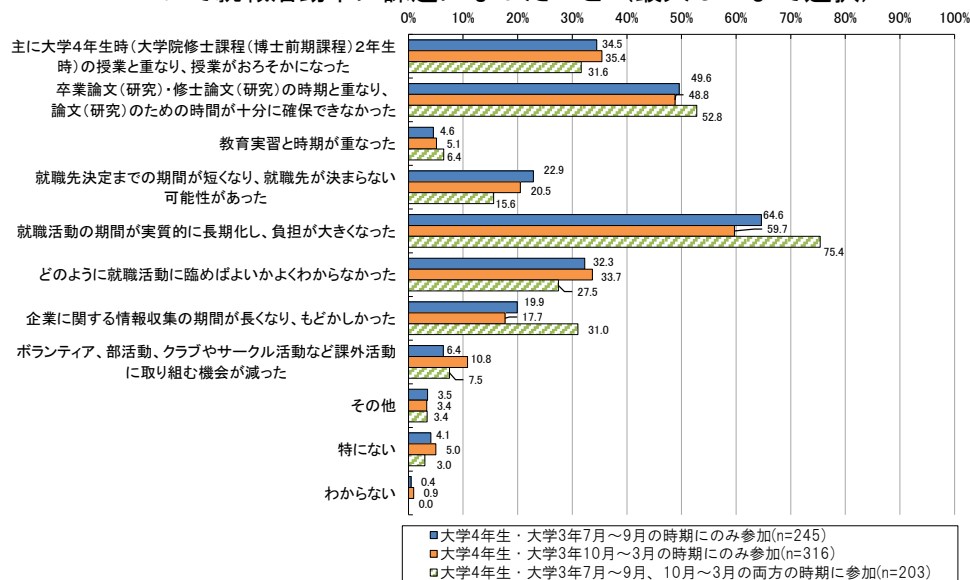
③大学4年生のインターンシップの参加時期・参加日数と課題認識との関係

大学4年生に関して、インターンシップの参加時期・参加日数別に、「就職活動時期後ろ倒し」について就職活動中に課題になったと考えることについて集計を行った⁶⁰。

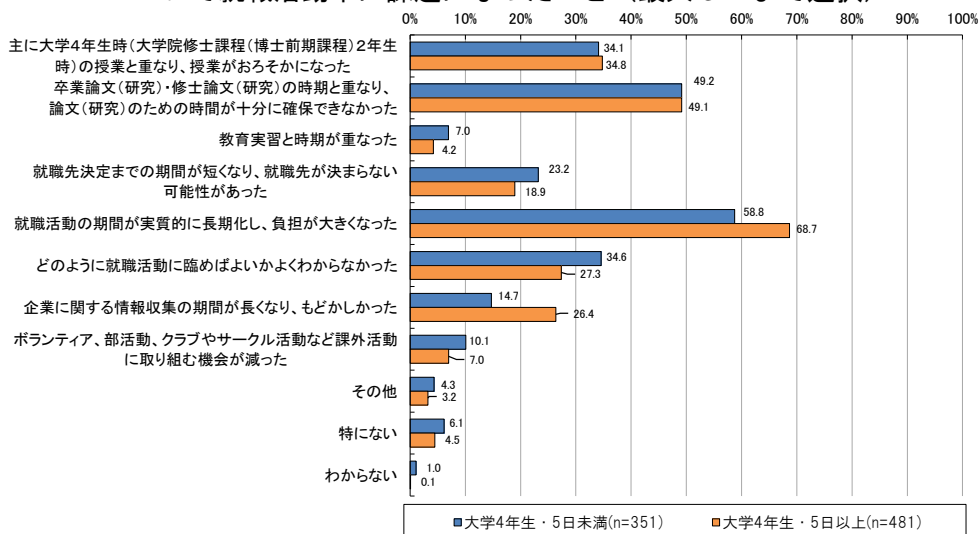
参加時期に関して、「大学3年7月～9月、10月～3月の両方の時期に参加」した者では、「就職活動の期間が実質的に長期化し、負担が大きくなった」の回答割合が高く、「企業に関する情報収集の期間が長くなり、もどかしかった」の回答割合も比較的高くなっている（図表7-7-5）。

参加日数別には、「5日以上」の参加経験がある者では「5日未満」の者に比べ「どのように就職活動に臨めばよいかよくわからなかった」等の割合は低いが、「就職活動の期間が実質的に長期化し、負担が大きくなった」「企業に関する情報収集の期間が長くなり、もどかしかった」の割合は高くなっている（図表7-7-6）。

図表 7-7-5 大学4年生、インターンシップの参加時期と「就職活動時期後ろ倒し」について就職活動中に課題になったこと（最大3つまで選択）



図表 7-7-6 大学4年生、インターンシップの参加日数と「就職活動時期後ろ倒し」について就職活動中に課題になったこと（最大3つまで選択）



60 ここでは、インターンシップ参加経験者の中での差異を把握することを目的として集計を行った。なお、参加時期に関する集計については、大学3年生の6月以前、大学4年生の4月以降に参加したと回答した者は集計対象外とした。